

研究・調査報告書

報告書番号	担当
378	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳) Association between Aldehyde Dehydrogenase-2 Gene Polymorphisms and Consumption of Alcohol in the Precursor Lesions of Esophageal Squamous Cell Carcinoma 食道扁平上皮癌の前駆病変におけるアルデヒド脱水素酵素-2 遺伝子の多型とアルコール摂取の相関	
執筆者 MURAMOTO Takashi, KANEKO Kazuhiro, KONISHI Kazuo, NOZAWA Hisako, KATAGIRI Atsushi, KUBOTA Yutaro, YANO Yuichiro, KOBAYASHI Yoshiya, KUSHIMA Miki, IMAWARI Michio, KANEKO Kazuhiro	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Showa Univ J Med Sci、Vol.21 No.1 Page.67-76 (2009)	
キーワード 食道扁平上皮癌、アルデヒド脱水素酵素-2 遺伝子、多型、アルコール摂取	
要 旨 アルデヒド脱水素酵素-2 遺伝子 (ALDH2) の多型はアルコール代謝に影響を与える。不活性な ALDH2*1/2*2 ヘテロ接合体遺伝子型はアセトアルデヒドの蓄積のため、食道扁平上皮癌リスクを上昇させる。今回の前向き研究の目的は、日常的なアルコール摂取と ALDH2 の遺伝子多型が食道扁平上皮癌形成 (低悪性上皮内ガン) の危険因子となるかどうかについて調べることである。昭和大学病院で 2004 年 1 月から 2008 年 8 月まで 400 人の被験者についてルゴールの色素内視鏡検査を行った。喫煙、アルコール摂取、ALDH2 遺伝子型の影響を高悪性上皮内ガン (HGIN)、低悪性上皮内ガン (LGIN) と対照で調べた。この結果、400 人のうち 32 名 (8%) が HGIN、21 名 (5%) が LGIN、347 名 (87%) が対照であった。LGIN と対照において、男性の構成割合、喫煙や飲酒率、ALDH2*1/2*2 遺伝子型の割合に有意な差は見られなかった。対照的に、HGIN (24/32、75%) では LGIN (8/21、38%) よりも、ALDH2*1/2*2 遺伝子型の割合が有意に高かった。さらに HGIN (20/25、80%) で LGIN (3/21、25%) よりも、ALDH2*1/2*2 遺伝子型で飲酒している者の割合が有意に高かった。LGIN と対照ではこのような差は見られなかった。毎日のアルコール摂取と ALDH2*1/2*2 遺伝子型は LGIN の危険因子ではないが、ALDH2*1/2*2 遺伝子型を持つ人がアルコール摂取することは HGIN の強い危険因子であった。	